

聖母被昇天をお祝いたします。

今年の夏は酷暑と言われるぐらい暑く、関西での震災、西日本豪雨の被害、台風の異常進路など、過去に例をみない天災に見舞われています。被災された方々のことを思うと、一日も早い復旧を願うばかりです。マリア様の優しき心に身を委ね、愛深き御心のままに進むことができますように。



日本カトリック映画賞 チケット販売の旅



5月19日（土）なかのZERO大ホールでの「第42回日本カトリック映画賞授賞式&上映会」には予想を超えた1000人以上の方がお見えになり、授章作「ブランカとギター弾き（長谷井宏紀監督）」は「血のつながりを超えた家族の物語」として多くの方と深い感動を共有することができました。おいでいただいた方、販売にかかわってくださった方、当日のボランティアの皆様には、心からの感謝を申し上げたいと思います。

日本カトリック映画賞は、第1回から第20回までは授章作品の上映をせず、中央協議会での授賞式を関係者だけで行っておりました。第21回「絵の中のぼくの村」から上映会を開催、皆様に見て頂くことができるようになりましたが、なかのZERO小ホール、川崎市アートセンターでは、会場が狭く、限られた座席数（約500）で思うようにチケットの販売ができない状況が続いておりました。私たちは上映会のたびに「座席が足りず、大勢の方が入場できない！！」という恐ろしい夢を見て、当日も入場者数をカウントしながら、ドキドキハラハラの開催を続けてきました。



板橋教会にてチケット販売

そこで第40回を記念して、思い切ってなかのZERO大ホールに会場を移すことになりました。大ホールは座席数約1200、今までの倍以上で、長年の「座席が足りない」という問題から解放されました。しかし、今度は新たな課題、「私たちに1000枚ものチケット販売ができるのだろうか」を抱えることになりました。

シグニスジャパンは本当に小さな団体で、資金も人材も限られています。チケットが売れなければ会場使用料、上映費用などを賄うことができません。大きなホールでの開催は使用料も高くなり費用は膨らみました。

シグニスのメンバーはここ数年、あちこちの教会をお訪ねして、日本カトリック映画賞の紹介とチケットの販売を続けてきました。毎年四旬節のころから始まるこの出張販売「行商」、この時期私たちは「今年もそろそろ行商の時期なので」といって所属教会を留守にすることになります。訪問する教会それぞれに個性があり、この出張販売はいろいろな教会の方と巡り会う貴重な体験となりました。またカトリック麹町（聖イグナチオ）教会の主日ミサ、カテドラルでの聖香油ミサでは、教会の入口付近でのチラシ配布も行いました。まさにゲリラ配布ですが、効果は上々、それぞれの教会の売店でチケットを買ってくださる方が増え、それが1000人以上のお客様へとつながったのかもしれませんが。

チケットを販売していると、「日本カトリック映画賞、今年ももうそんな時期なのね」とあちこちの教会で声をかけていただくようになりました。今年はチラシの配布までお手伝いいただき、そして「来年も協力しますよ」と言ってくれる教会も。



なかのZEROにて授賞式&上映会

ああ、皆さま、本当にありがとうございます。シグニスジャパン、行商を続けてきて本当に良かった……。来年も私たちの行商の旅は続きます。「うちの教会にもおいで」というときはぜひ声をかけてください。チケットを持って伺いたいと思います。

そして来年「第43回日本カトリック映画賞授賞式&上映会」は、2019年6月22日（土）なかのZERO大ホール、シグニス一同、皆様を笑顔でお待ちしています。

（映画チーム）

パーフェクト・レボリューション 上映会&トークショー

2018年6月23日(土)、カトリック麴町(聖イグナチオ)教会ヨセフホールにて、カトラジ!(カトリックの青年によるインターネットラジオ番組)主催により、「パーフェクト・レボリューション(松本准平監督)」上映会&トークショーが行われました。トークショーの感想をカトラジ!の安達さんに寄稿して頂きました。

東京教区の青年活動に参加していると定番のプログラムである「分かち合い」に多く参加する機会があります。分かち合いのテーマは色々と聖書箇所やプライベートでの生活の話、音楽や映画などなど。分かち合いが好きで色々なテーマで今まで行っていました。トークショーとして人前で自分の考えを話すのは初めてで、しかもテーマが「カトリックと性」という未体験な内容。カトリックの世界だけでなく、一般世間でも公に話されない性について松本監督、晴佐久神父様とカトラジスタッフ2人でお話しました。

性について学ぶ機会が2回ありました。一回目は小学生の時その時は感染症と妊娠についての話がメインで小学生ながらも「セックス」=「危険な事」とインプットされました。感染症については怖いと素直に思いましたが、妊娠については先生が「リスク」と表現されたのを今でも覚えています。二回目は中学2年のカテケージスでした。成人洗礼である私は罪についての教を聞いている時に十戒の中の第六戒について「君はまだ若いから罪に陥りやすい。十分に気をつけなさい」と言われました。その結果、セックスに対して当時思春期まっ盛りの私は興味が湧くと共に悪い行為だと

思うようになりました。その後も性について多くの司祭に話を聞くも「昔からダメと言われているからダメ」、「カテキズムに書いてあるでしょ」と納得のいく説明をされませんでした。なのに世間話では少子高齢化に悩む話や産めよ増えよと言います。結婚式をするまで性交渉や同棲を厳しく禁じているのに、結婚式が済んだ瞬間それが解禁される違和感を覚えました。昨日までではいけなかった事が今日から良いのかと。

トークショーで晴佐久神父様は「カトリック教会は長い間性について詳しく話してこなかった。人間の大切な行為として、話していくテーマだと思う」と言っていたのを記憶しています。

トークショーで私は「考えに考えた結果、出した答えなら良いのではないかと?後は神の裁きの時に良かったのか悪かったのかわかるのでは?」と発言しました。会場では頷く人もいれば首を傾げる人もいました。色々な反応があると思いますが、色々な反応があるからこそこれからも話していく、分かち合っていく貴重なテーマだと思いました。

後日談ですが、クリスチャンプレスの記事を読んだ友人が「実は私も性についてネガティブなイメージを持っている」と相談を複数人から受けました。私と同じような悩みや違和感を持っている人がいて、そんな人たちに「悩んでいるのは一人じゃないよ」と伝えられたトークショーでもあったのかなと自負しています。(安達 徹 / カトラジ!)



賛助会員と捧げる感謝ミサ

2018年7月21日(土)、カトリック浅草教会にて、「賛助会員と共に捧げる感謝ミサ」が行われました。

「すべてを照らしてくださる神よ、あなたは、暗やみにさまよう人たちがまことの道に立ち帰るように、真理の光を輝かせてくださいます。」と、集会祈願が唱えられ、シグニスとしてひとつに集めて下さった神様に感謝し、私たちのメディアを通した福音宣教の活動を導いてくださるよう祈りました。

説教では、晴佐久神父が心を病む方のためのキャンプについて話されました。人との関係に傷つき悩む方たちが、心を開いてお互いを受け入れ、助け合って過ごした「これこそが天の国」と言えるすばらしい数日間の出来事は、聞いている私たちにも大きな希望と慰めが与えられました。

ミサ後は、お弁当で昼食を取りながらの懇談会となりました。土屋会長から最近の活動報告と、「ITメディアを使った福音宣教、読んだら周りの人にシェアしたくなるニュースをSNSで展開するプロジェクトを立ち上げるので、シグニスで応援したい」との挨拶がありました。続いて「私が最近出会った福音」というテーマで、参加者一人一人が、自己紹介、近況報告を兼ねてこのことについて話し、皆で分かち合いました。

*自分自身がここにいることが恵み。*信者であることこそが福音。*若者主催で開かれた、映画「パーフェクト・レボリューション」上映会が Good News。などなど、参加者の思いが語られ、和やかな雰囲気の中で時間が過ぎていきました。

晴佐久神父の「今はメディアの時代であると共に、“生のもの”も大事」というメッセージが強く心に残りました。私たちシグニスのメディアを通した活動には、年に数回でも顔と顔を合わせて、共に祈り言葉を交わす機会がとても大切であり、活動の原点となると改めて思います。

猛暑の中、参加して下さいました皆様、葉書で近況を寄せて下さった皆様、どうもありがとうございました。これからもご支援よろしく願いいたします。来年はもっと涼しい季節に集まりましょう!(事務局)



シグニスでは賛助会員を募集しています。詳しくは下記サイトをご覧ください。
<http://signis-japan.org/>